

何にもないから新婚みたい

おばあちゃん

今年の七月六日。大雨で学校が休み。ごろごろしていた時です。母の衝撃的な一言。「真備が沈んでる！」おばあちゃん家はあの真備町にありました。まさに七夕の悲劇でした。初めて片付けに行った日は本当に何もなくて驚きました。そんな絶望的な場面でおばあちゃんが発した言葉がこれです。「何にもないから新婚みたいね。」私には悲しいからわざとそう言ったのか、素直にそう思ったのかなんて分からないけれどなんだか忘れられませんでした。どちらにしてもこの場面でポジティブにこう言えたことはすごいと思います。

暗くて怖かった廊下も閉めるのがうるさいと怒られたドアももうないけれど、たくさんの思い出とこの言葉を大切にしたいです。

受賞にあたって

西日本豪雨でおばあちゃんの家は二階でも体が水につかるくらい大変な被害を受けました。携帯電話の充電の残量を心配したおばあちゃんは、電話をかけてきた親族に「無事。大丈夫。もう連絡せんでよし」とだけ言っていました。一週間後に会えた時は笑顔で抱きしめられて、涙が溢れてしまいました。同時に、この言葉を聞いて、いつも明るいおばあちゃんらしいと思いました。懐かしい家を取り壊すのはさみしいけれど、大好きなおばあちゃんが無事で良かったです。